

～ 選手の皆さんへ～

大会でお振舞いしたカレーには、大槌で獲れた鹿肉を使用しています。獲れた鹿の半分は、新山のものです。

鹿肉は、高たんぱく、低カロリーかつ鉄分が多く含まれている「アスリートフード」です。

レース後の疲れた体に栄養が補給できるように、野菜もたっぷり使って誰もが好きなカレーを提供しました。

選手の皆さんには、レース後には景色を楽しみ、大槌の自然を身近に感じていただけたと思います。

参加賞は、「岩手うんめえもの賞」を受賞した鹿肉の缶詰です。これからもジビエを召し上がっていただきながら、大槌のことを思い出してもらえると嬉しいです。



大槌鹿の ジビエカレーが 振る舞われました



◀半澤 和樹 さん (写真左)
町内の子どもが書いてくれた応援手紙が嬉しかった。今度は、家族で大槌町を訪れたい。

◀菅原 裕憲 さん (写真右)
町の皆さんが沿道で応援してくれてありがたかった。帰りも手を振ってくれて、地域の温かさを感じました。

小鍬地域の人が

新山の活気につなぐ

もともと新山は、栗拾いや牧場で使用するなど生活に密着した山であったと同時に、小鍬神社本宮がある場所として信仰の対象にもなっていました。また、たたら製鉄が行われていた歴史もあります。「森は海の恋人」という言葉が示す通り新山は、大槌の大切な水源になっています。

小鍬地区では、選手の皆さんに快適に走ってもらえるよう、コース内の枝払いを実施してきました。

また、頂上のイベント広場の草刈りを行うなどの環境美化にも力を入れてきましたが、年々ボランティアのみでは活動が厳しくなりつつあります。東日本大震災以前は、「新山高原祭り」も開催していましたが、震災後にはイベントもなくなりました。おおつち新山高原ヒルクライムが開催されることになり、全国各

地から選手が集まり、活気ができたと感じています。

200台もの自転車が、小鍬地区を疾走していくのは壮観で、全国各地から選手が新山に集まることでの盛り上がりを楽しんでいます。これからは、選手の皆さん立ち寄っていただけるような場も用意したいという構想もあります。

おおつち新山高原ヒルクライムを通して、復興で全国からいただいた支援に恩返しを続けていきたいです。



なぜ上るのか

レースを終えたゴール地点では、完走した選手間でコース、タイム、レース展開などの会話が盛り上がり、選手のロードバイクとサイクルジャージが新山つじとともに彩りを添える。



走り終えた選手からお話を聞いた。なぜ上るのか。

「上っているときは辛い。それでも上り切ったときの達成感は何者にも」「景色を楽しめる」「練習した分だけ速くなれる」。

選手の口からは、次々と坂の楽しみ方が聞かれる。

「新山の風車が雄大だ」「海から山の頂上まで上れるコースは珍しい」と新山ならではのコースの特色を楽しんだ人も。

中でもやはり、最も多く聞かれる言葉は「達成感」。

「坂」を上らなければ、見られない景色、自動車で上ったものとは異なる自分の力で上り切ったという満足感。またレースという多くの仲間と競い合いながら、走れるという場面、色々な要素が融合して、それぞれの気持ちに「達成感」が生まれる。「またレースに参加したい」そう思わせる魅力が新山にはあるのだ。

大会を終えて

実行委員長より

大会に参加された皆さん、大槌町にご来町いただきありがとうございます。また町民の皆さんには、交通規制などもあり、ご不便を感じた人もいらっしゃるかと存じますが、皆様のご協力のもと無事に大会を終えることができ感謝しております。

来年は、風車関連の工事のため、大会の開催はできない状況にありますが、大会参加者からは「また参加したい」との声が多く聞かれますので、大会の再開に向け注力してまいります。

今後もこの大会が大槌に根付いていき、また、自転車を通しての交流人口の拡大が図られればと思っております。

レースに参加された人はお気づきになったと思いますが、スタート・ゴール、そしてゴールまで残りの表示標識を常設設置いたしました。自転車乗りの皆さん、いつ行ってもタイムアタックできますので、ぜひ新山に走りに来てください！



パレードを完走した皆さん、産直つじの里で記念撮影



大槌恒例の餅まき、選手たちは疲れを見せず楽しんでました